

# かがやく

第6号

2009. 2. 25発行

発行者

ひたちなか市女性生活課

ひたちなか市東石川2-10-1

電話 029-273-0111

## <特集>

わくわく体験事業・  
ハーモニーフェスタ2008



## 親子でロコモコを作ろう！



実に楽しそう、そしていい匂い……。

ハワイの日系人が、故郷の丼ご飯に思いをはせて作られたというロコモコ。ご飯の上に土地のおかずを乗せて、混ぜ合わせて食べるのが一般的とのこと。

ハンバーグ、目玉焼き、その脇にレタス、トマト、そしてパイナップルも添えられて彩りもあざやかな一品。これに野菜スープ、ココナツミルクとフルーツのデザートが今日の献立。

子どもたちが慣れない手つきで肉をこね、野菜を切り、フライパンをにぎる。男の子も多い。出来上がった料理を、ほおぼる子供たちの生き生きした目が印象的な調理室であった。



# 男（ひと）と女（ひと）

## お互い認めて 輝く個性

ハーモニーひたちなかフォーラム

ハーモニーひたちなか主催によるフォーラムが11月22日に開催され、永田宏和さん（NPO法人プラス・アーツ理事長）による講演が行われました。

永田さんは阪神・淡路大震災10年事業で、楽しみながら防災を学ぶ新しい防災訓練プログラム「イザ！カエルキヤラバン！」を開発。2005年以降その活動は全国に展開、さらにインドネシアにも広がっています。

講演では「地震イツモ講座」〜阪神・淡路大震災被災者167人の声に学ぶ〜をテーマに、イラストや写真を用いて分かりやすく話してくださいました。

地震のとき家のなかでケガをしない方法は、「揺れた瞬間は何もできない。それを知ったうえで、例えば倒れてきた家具の下敷きにならないように家具を固定する。L字金具等を使わなくても、天井までダンボールの空き箱を積み上げるだけでダンスは倒れない。」など、実際に被災した167人の体験をもとに語られるそれぞれのキモチと工夫は、非常に説得力のあるものでした。そして「イザ！カエルキヤラバン！」は、「防災といわない防災訓練」として、地域の行事に組み込んで実施するプログラムで、震災の教訓を多くの人々に伝えていくことを目的に作られました。子どもたちが遊びながら防災について学んでいくのですが、子どもだけ

でなくそこに大人も参加することで大人も防災について学び、地域防災に関心のある人のネットワークが広がっていき市民の防災への関心が高まってくることでした。

さらに永田さんは「イザ！カエルキヤラバン！」のプログラムは行く先々でアレンジされ進化していきます。ぜひ今回は、ハーモニーフェスタとタイアップしたことで、女性の視点で『こういうことが足りない』とか『こういうことが大事』という部分をリサーチしてオリジナルのプログラムを作ってほしい』と結んでいました。



講演する永田宏和さん

ハーモニーフェスタ2008

23日と24日には、ハーモニーひたちなかと男女共同参画センター利用団体によるパネル展示やバザー、ワークショップ、各種講座が行われました。

大会議室でのパネル展示ではスタッフによる詳しい説明を聞くことができ、それぞれの団体が日頃の活動などについて工夫して紹介していました。

1階のロビーでは「紙すき」「アクリルたわしづくり」などのワークショップ、「塗り絵コーナー」や「読み聞かせ」なども行われ、多くの子どもたちが楽しんでいました。

ハーモニーひたちなか所属団体の企画講座「遺言状の書き方」「シルバーハビリ体操」「食と地球を守りたい」「セカンドライフ」では、参加者から「地球温暖化ストップのため、できることから始めたい」「定年後の第二の人生を考えるきっかけになった」という意見が寄せられました。

これまでのフェスタは、男女共同参画センター利用者との交流が主な内容でしたが、今回はハーモニーひたちなかのネットワークを活かしてさまざまな事業が行われ、また「わくわく体験事業」との共催ということで、子どもたちや若い世代との交流もあり、今までとは違った盛り上がりとなりました。



イザ!カエルキャラバン! in ひたちなか



おもちゃのオークション



毛布で担架タイムトライアル

## かえっこバザール

「100から。ハイ、ヘリQ 160ポイントで決まりです。」これは11月23日と24日に、ワークプラザ勝田で開催された「わくわく体験事業・ハーモニーフェスタ2008」の中で、一番熱を帯びていた「おもちゃのオークション」の一角です。

いらなくなったおもちゃを『子ども通貨』かえるポイント』に換えて、おもちゃの交換遊びや様々な体験を行う藤浩志さん考案の『かえっこバザール』と、永田宏和さんが開発した、親子で楽しみながら防災の知恵や技を習得できるユニークな防災訓練『イザ!カエルキャラバン!』を中心に繰り広げられた2日間のイベントは、多くの市民で賑わいました。

子どもたちは不要になったおもちゃ・アクセサリ・本・DVD等を持参し、かえっこバンクで1〜3ポイントに換えてもらいますが、そのなかで「かんだうポイント」のついたおもちゃは、オークションに出品され、一番高いポイントを出した人が交換できます。そのため、子どもたちは、かえっこ会場で「おてつだいスタッフ制度」に参加し、おもちゃの販売や、おもちゃを運ぶ係など、誰でもできる「お仕事」を紹介してもらい、5分単位のお手伝いでポイントをもらいます。このようにしてためたポイントで、人気の高いお

もちゃが並ぶオークションに参加できるのです。

舞台上に並んだ出品物のおもちゃを品定めしていた小学生の男の子は、「200ポイント以上持っていて、」立体8の字四駆コース」を狙っています」とのこと、すごいですよね。

## イザ!カエルキャラバン!

屋外には「煙中体験」「AED取扱体験」「消化服装着体験」「水消火器でのあてゲーム」「毛布で担架タイムトライアル」等のプログラムが用意されていました。例えば「毛布で担架タイムトライアル」は、20kgくらいのカエル人形を大人と子ども6人で運ぶのですが、毛布の端をくるくる巻いて取っ手をつくと重さが軽く感じます。

阪神・淡路大震災の時には、急病人を運ぶための担架は数が足りず、毛布や畳など身の回りにあるもので代用したそうです。身近な毛布が担架代わりになり、みんなで協力すれば、けが人を安全な場所まで運ぶことができるということを学ぶワークショップでした。

また地震で食器が壊れたとき、新聞紙を利用すれば食器の代わりになることを学ぶコーナーでは、その食器を使ってポップコーンや焼きいも、すいとの「おもてなし」もありました。

## イキイキと輝くために

「かえっこ」では、自分では捨てるしかなかったおもちゃが活きるのです。持ってきたおもちゃを自分よりも小さい子の手に握られているのを見て喜び子や、お手伝いに参加して瞳を輝かせている子どもたちに出会えました。捨てるなんてもつたない、とその先のエコを考えるキツカケにもなるし、お手伝いを通して働くことの楽しさも感じられました。

今回のフェスタは、参加者が年齢や性別をこえて協力し、交流して一つのものを作り上げるものでした。これをキツカケにお父さんもお母さんも、子どももお年寄りも、いろいろな地域活動に参加してイキイキと輝けるようになるといいですね。



水消火器でのあてゲーム

## パパはお掃除名手！



会場に入って一番驚いたことは、参加者に若い男性が多かったこと。

数日前、私は日本の男性の家事参加率は、先進国最低の12%と教えられたばかりだったから、この風景にはちょっとびっくり。

神長講師は、家事コンサルタント、整理整頓アドバイザー、お掃除スーパーバイザーの肩書きを持つプロであると同時に、週末主夫暦15年、全部の家事をこなすという言行一致の先生であっ

た。

先生は窓ガラスの磨き方のテクニックや油周りの汚れの対処方法を、持参した鍋などで実践してみせる。こびりついた汚れは必ず温めてから、重曹とケチャップを混ぜてのエコ洗剤。

圧巻は風呂場の鏡の水垢取り。鏡をサンドペーパーでこすると、本当に簡単に汚れが取れる。目からうろこの感じ。

さっそく試したが確かに、あのざらざらだった鏡がつるつるに光った。

## フラガールになるぞ！

### 男女共同参画センター

☆研修室が利用できます。

研修室1 (35名まで)

研修室2 (10名程度)

☆図書やビデオを貸し出します。

☆セミナーを開催します。

お問合せはセンターまで

電話・FAX

354-0167

Eメール

danjo282@juno.ocn.ne.jp

フラダンスは、今人気上昇中と聞いたが、会場は受講者でいっぱい。お花畑のような華やかな雰囲気。色とりどりのパウスカートをひろげて楽しそうに、くるくる廻っている子どもたち。

女の子が多かったが、チラホラ男の子の姿もあり上気したほほが可愛い。その中で、お父さんも一緒に家族が二組あった。一生懸命踊っていたので感想を聞いてみると、「楽しいですね」とのこと。「これからもどうですか」の問いかけには、お二人とも「うーん」。

フラは文字を持たなかった古代ハワイの人々が、神話や伝説を伝えるために生まれたダンスだという。



今日のフラは「フキラウ ソング」。二時間のレッスンで気分はすっかりフラガール。心も、からだも浮き立つ様子が散会。私も知らず知らずに波を作っていた。

編集に参加して多くの人と出会い、いろいろな事を学ぶことができました。また「男女共同参画」について改めて考える良い機会になりました。何事もチャレンジしてみるのは大切ですね。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

(村山)

人生に一つの無駄もないように、何でもやってみて損はない。そう思うようになり、今回縁があつてこの紙面づくりに微力ながら参加できたのだらう。今後でもできる範囲で何にでも興味を持ち、吸収して心豊かに過ごしていきたい。

(木村)

大きな会場いっぱい、子どもたちの声をはじけるなか、さまざま催しを覗いて歩きましたが、参加者の生き生きした表情がとても印象的でした。最初は「かえっこ」どのコラボは想像できませんでしたが、たくさん子どもたちの活気が大成功につながったと感じています。楽しい取材をさせていただきました。ありがとうございます。

(小坪)